

アダム・ミツェヴィチ大学における日本語教育

アダム・ミツェヴィチ大学

ポーランドのポズナン市にある国立大学。1919年に創立。総学生数は現在約3万7千人ほど。日本語教育にあたるのは新文献学部東洋研究所日本研究科、民族言語学科の2か所である。以下、それぞれの概要である。

I. 新文献学部東洋研究所日本研究科

1987年に隔年募集の日本学専攻科（5年制修士課程）を開設。日本語学習希望者の増加に伴い2001年より毎年募集に。2007年には3・2制－3年制第1学位課程・2年制第2学位課程（＋第3学位（博士）課程）制度に移行、さらに2010年には日本学専攻科第1学位課程の夜間コースを開設した。日本研究科の教員はポーランド人9名・日本人5名の合計14名。2019年10月現在で学生数は167名。『初級日本語』『ニューアプローチ中級日本語』『ニューアプローチ中上級日本語』『テーマ別上級で学ぶ日本語』などを主教材として用いる他、各種市販教材や教員自作の教材を活用し、授業を行っている。学生達は、在学中に日本政府奨学金留学生としての日本留学、財団法人日本ホテル教育センターが後援する観光接遇インターンシップ事業や株式会社アストミルコープ主催のサマージョブへの参加、京都産業大学との交換留学制度、ワーキングホリデーなどの機会を生かして渡日し、実践と研鑽に努めている。また、来年度からは島根大学との交換留学も開始される。卒業後の就職先は、在ポーランド日本国大使館、駐日ポーランド共和国大使館、各種日系企業、日本及びポーランドの高等教育機関、旅行代理店や翻訳会社など多岐にわたる。東洋研究所のWEBサイトはこちらである（ポーランド語のみ）。

<http://orient.amu.edu.pl/struktura-instytutu/>

II. 民族言語学科

民族言語学科は2019年10月に学科編成に伴って新設された。その際、韓国語学専攻科、ヘブライ語学専攻科、ベトナム語学専攻科、民族言語学専攻科、ラトビア語学専攻科、リトアニア語学専攻科が開設された。前期専攻科全て学士課程3年、修士課程2年制である。日本語は民族言語学専攻科で選択専攻科目として3年又は5年間、韓国語学専攻科修士課程1年時に1年間履修する。民族言語学専攻科は、民族言語学科の前身でもある言語学科に1998年10月開設された。その当時から日本語は、第二専門言語の1つとして、毎年設けられている。日本語関係担当の教員は、昨年度学科編成に伴いポーランド人1名と日本人1名になった。

2006年度までは、学士・修士課程一貫の5年制だったため、第二専門言語としての日本語は5年間履修されていた。民族言語学専攻科での日本語は、学士1年、2年共に年間240時間、3年は210時

間だが、3年時には日本文化 60 時間、翻訳 30 時間の授業もある。修士 1 年での日本語は年間 120 時間、2 年は 1 期のみ 60 時間となっている。韓国語学専攻科での日本語学習時間数は、年間 120 時間である。民族言語学専攻科の学生は、学士課程 3 年終了後 2 年の修士課程に進む者、専攻を変えポーランド国内の日本学科やその他の専攻を選び進学する者、また、在学中に交換留学制度を利用したり、ワーキングホリデー制度等を利用し日本へ渡航する学生もおり様々である。

当学科のサイトは下記のリンク先を参照願いたい。

<http://ie.amu.edu.pl/>